

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4472600966
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホーム さくら
訪問調査日	平成21年 9月11日
評価確定日	平成21年10月19日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4472600966
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホームさくら
所在地	豊後大野市三重町市場598番地の1 (電話) 0974-22-3695

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年9月11日	評価確定日	平成21年10月19日

## 【情報提供票より】 (平成21年7月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200円			

### (4) 利用者の概要 (平成 21年7月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 土生医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 グループホームは、町の中心部にあり、事業所のすぐ近くに、市役所、銀行、商店街などがある。買物や、市役所、銀行などへ用事の際は、利用者も同行していて、家庭的な暮らしぶりである。
- 2 運営母体が医療法人で隣接しているため、急変時や、重篤化した場合なども安心できる。
- 3 管理者が研修や、資格取得に対して、勤務時間の調整をしたり、金銭的な協力もある。職員も目標を持ち、皆でサービスの向上に取り組む姿が見られる。
- 4 レクリエーションを通して利用者の身体的能力の向上を図っている。利用者一人ひとりの基準表を作成している。「最低目標」「標準目標」「理想目標」など具体的にわかりやすい目標を立て、取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「食事を楽しむ事の出来る支援」「役割、楽しみ事、気晴らしの支援」「災害対策」「居心地よく過ごせる居室の配慮」の4項目を掲げ、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を行うことで、自分たちの行うサービスを見直す良い機会と捉えている。しかし、パート職員は自己評価を行っていないので、今後はサービスの質の向上を図るためにも、全職員で取り組むことが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、幅広い立場の人が参加し、会議を行っている。会議の中で外部評価の報告や、事業所のサービスの現状報告を行っている。助言などは、サービスの質の向上に繋いでいる。また、市役所職員と普段から行き来があり、顔なじみになっていて何でも相談しやすい、良好な関係ができています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用料の支払いは家族が持参することを原則としている。月1回は、面会の機会があり、その時に健康状態や、日頃の暮らしぶりを、写真などに撮っておいて報告している。その他、必要に応じて随時電話で報告をしている。また、家族からの意見を得やすいように家族会の時にアンケートを取ったり、職員が席を外すなどの配慮をしている。出された意見は運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園児が遊びに来てくれたり、地域の人が母体病院受診時に尋ねてくれる。近隣の人が野菜や花を、老人会の人から手作り人形を届けてくれる。地域の催し、行事、祭などへ参加したり、近くの商店街に買い物に行くなど、日常的に地域とのつながりがある。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念をもとに、利用者を支えることを目標に取り組んでいる。しかし、「人格を尊重する」とか「尊厳を守る」などの文言が、分かりにくいので、もっと分かりやすい言葉で作り変えたいと皆で検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時やミーティング時に管理者が伝えている。日々のサービス提供場面でその都度、その場で説明、指導している。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の保育園児が遊びに来たり、専門学校の学生がボランティアに来たり、母体の病院に受診に来た際に尋ねてくれる。また、近隣の人が野菜や花などを届けに来てくれたり、近くの商店街に買い物に行ったり、日常的に地域との関わりがある。地域の祭りや催しにも参加している。地域の老人会の人たちが作った人形を届けてくれたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで自分たちの行うサービスを見直す良い機会と捉えているが、パート職員は自己評価を行っていない。	○	職員全員で自己評価に取り組むことで、ケアの見直しや職員の意識の統一にもなるので、パート職員も含め今後は全員で取り組むことを望みたい。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、幅広い立場の人々が参加し会議を行っている。会議の中で外部評価の結果を報告したり、事業所のサービスの実際や、利用者の現状報告などを行い、助言などを受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所がすぐそばにあり、書類などを直接届けたり、市の職員も書類などを持ってきてくれたりと、交流がある。何でも聞いたり、相談したりしやすい関係ができています。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払い、家族が持参することを原則としている。月1回は、面会の機会があり、その時に利用者の日頃の暮らしぶりなどを写真に撮っておき、報告している。また、その時に職員の異動なども報告して、新職員を紹介している。随時、おたより、電話などで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意識的に家族とかかわり、意見が言いやすいような関係作りを普段から心がけている。また、家族会では職員が席を外し、お茶を飲みながら家族同士が話す機会を設けたり、アンケートを取ったりしている。出された意見は職員ミーティングの中で取り上げ、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心がけている。異動や退職のときは事情をよく説明し、納得してもらえるようにしている。また、利用者が馴れるまでは新職員へマンツーマンで指導を行い、利用者には不安を与えないようにしている。法人内の異動は定例会などで利用者とも顔馴染みになっているので、不安は聴かれない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て段階的に研修が出来るようにしている。県内外の研修にも職員の希望によって参加させている。その後、参加職員が伝達研修を行っている。法人内の研修も毎月行われていて研修の機会は多い。また、資格取得のための勉強会を法人内で行ったり、資格を取るための休日を優先したり、費用負担も事業所がしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の会員で、協会の行う研修に参加し交流の機会を作っている。また、同業者との交流もあり職員が訪問したり、意見交換を行うなどサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に入所前にホームを見学してもらうようにしている。職員が入院先の病院や自宅を訪問するなど、安心して入所してもらえるように配慮している。また、入所時に家族に、家で使っていたカップや箸など、愛用のものを出来るだけ持ってきてもらうように依頼をしている。なかなか馴染めない場合は何度も家族に面会に来てもらうなど協力してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物を一緒にたたんだり、団子汁の団子の伸ばし方を教えてもらったり、野菜づくりをならうなど、個々の得意分野で、力を発揮してもらっている。キュウリやトマトの水やりなどを一緒に行い、野菜の成長をともに喜びあっている。また、自分たちの作ったトマトやキュウリを献立に取り入れ、利用者の喜ぶ姿が見られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族からの聞き取りを行っている。日々の暮らしの中での言葉や態度、表情などからも本人の思いを汲み取るようにしている。言葉、表情などは記録し申し送り時に報告し、情報を共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや、家族の思い、意見などを聞いたり、日ごとの関わりの中で、職員が感じたことなどを、ミーティング時に報告している。それをもとに介護計画を立てている。管理者(介護支援専門員)が立てた介護計画を職員全員で検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとに用意された個別ファイルを参考に情報の共有を図り、それをもとに3ヶ月ごとに見直しを行っている。3ヶ月以内であっても、介護度の変更や身体状況に大きな変化があった時は見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診は家族、本人の希望に応じている。家族が対応出来ない時は、通院支援も行っている。盆・正月の帰省以外に利用者の希望で郵便物を取りに自宅まで送迎を行うなど、柔軟な外出支援を行っている。また、昨年より認知症対応型通所介護を始め、近隣の方が利用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の母体が病院で協力医療機関になっているが、専門医の受診や、入所前からのかかりつけ医を希望する家族や本人には希望する病院へ受診に連れて行っている。協力医療機関以外の受診は基本的には家族が同行するようになっているが、家族の都合によっては職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」「看取り介護についての同意書」を文書化している。入所時に重度化や終末期について、本人や家族へ説明を行い、意思の確認をしている。今の所、実際に看取りまでは行った事はない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月行われる定例会や朝のミーティングの折に、職員にプライバシーについて触れ、「職員の意識向上を図るようにしている。また、管理者が介護場面の中で職員がプライバシーを損なうような対応をしていないか、常に心配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、食事時間や入浴時間なども制約は無く自由である。また、その時の利用者の気分で商店街に買い物に行ったり、施設周辺の散歩をしたり、個人の希望に添った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と育てた野菜を献立に取り入れている。野菜の皮むきや配膳、下膳、テーブル拭きや、団子を伸ばしてもらうなど利用者の力に合わせた手伝いを通して、食事が楽しみになるような支援をしている。また、一緒にテーブルで食事を楽しむようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて午前、午後とも入浴ができる。場合によっては、毎日入浴や、夜間入浴にも対応している。また、一人の職員が最初から最後まで対応し、会話をしながらゆっくり、入浴を楽しめるような支援が出来る。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の生活歴を参考に、面会時に家族から改めて情報を得るように努めている。その情報をもとに野菜の植え替えを手伝ってもらったり、編み物を教えてもらったり、墨絵を描いてもらうなど、一人ひとりの力を発揮できるような場面を作り、日々の生活のなかで役割として支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店街に買い物に出かけたり、自動販売機にジュースを買いに行っている。施設の中庭で花の水やり、施設周辺への散歩など、日常的に戸外に出かけている。歩けない人は車椅子介助で出かけている。自宅訪問やお墓参り、祭り見物、栗拾いなど本人の希望に応じて、外出の機会を作るようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。ホールの中から中庭が見えるような建物構造になっている。中庭に出た時は、職員がホールの中から確認をしている。一人では危険な利用者には職員と一緒に出かけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いで避難訓練や消火訓練を実施している。運営推進会議で訓練の報告と呼びかけを行っている。災害時に備えて水や缶詰などを備蓄している。災害時の人材育成として、甲種防火管理者の受講に積極的に参加している。また、法人の医師や、看護師による救急法の指導を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体である医院と法人の有料老人ホームの栄養士が交代で立てている。その日の献立の材料を送ってくるので、利用者の嗜好に合わせて、嫌いな人には代替食を出している。また、肥満気味の人や糖尿病の人には揚げ物を煮物に変更している。毎日チェック表に記録し、食事量や水分量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花や野菜が植えてあり、ホールには彼岸花が飾られ、廊下の壁にも季節の花を切り絵にして貼っている。季節感を随所で味わうことが出来る。玄関先の木陰にベンチがあり、戸外で小休止できるようにしている。施設内の共有スペースにはソファやいぐさ(冬はホットカーペット)の敷物が敷かれている。台所が対面式のため料理の匂いや茶碗を洗う音などが日々感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と共にくつろげるようにベッドの下に簡易畳を敷いている。子供や孫の写真を飾ったり、趣味の編み物の道具を入れた籠を置いている。位牌を祀るなど、利用者のそれぞれの思いを大切にしている。花の好きな利用者にはテーブルや洗面所に常に花を飾っている。居室からも中庭の花が見えるよう、部屋の位置を配慮している。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明


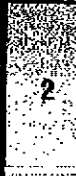



評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームさくら
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	豊後大野市三重町市場546の3
記入者名 (管理者)	阿南 昭子
記入日	平成21年8月20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念があり理念を基に利用者を支えることを目標にしているが、新しい理念を作りたいと定例会で皆から出された考えを出して見たが、理念としてまとめることが難しく新しい理念は完成されていない。これから取り組んでいきたい。	○ 理念をみんなで考え完成させたい。
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい職員が入りミーティングの時、理念についての説明を行い利用者との関わりの指導時に理念を掘り下げて、理念にそったケアとは何かを伝え、日々考えながら取り組むように伝えている。	
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族にはグループホームにいても地域とのつながりを大切にして今までどおり、家族、友人、と交流してほしいとお願いしている。ボランティアや面会の方にもいつでも気楽にお茶をのみに立ち寄って下さいと伝えている。ご利用者の買い物や散歩なども地域のお店を利用し、近くの銀行にご利用者が毎月行き利用している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の周りに商店があり、職員もガソリンスタンドを利用したり、馴染みの食堂を利用し勤務の行き帰りには挨拶を交わし、グループホームに勤務していることを知ってもらっている。管理者も同じ町内に住んでおり昔からの知人も立ち寄って来てくれる。	
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の保育園との交流、藤華医療技術専門学校の学生のボランティアとの交流をしたり、ご利用者の自宅のある地域の敬老会に家族の協力で参加してご本人も喜ばれた。近くの老人保健施設の夏祭りや町内のお祭りに出かけお神楽や催し物を楽しんだり、地域の老人会の方が作った人形を届けていただき交流した。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	今後職員一人ひとりの意見を定期的に聞く時間を作り運営者にも伝えたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修に職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月行う定例会で発表してもらい研修内容を職員が共有できるようにしている。ケアマネージャー等の資格試験に備えて各種援助、勉強会を法人内で行っている。介護福祉士等の資格をとる職員は休みを優先的に取れるよう配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県グループホーム協会の会員で協会の行う研修に参加し交流の機会を持つている。グループホームくたみのもりとは以前から交流があり、さくら、あじさいの職員がくたみのもりを訪問し意見交換を行いアドバイスをいただいた。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を用意し休憩時間を確保したり、定例会などで話し合い意見を聞くようにしている。勤務表作成の前に、休みの希望を聞き希望に沿うようにしている。体調不良時、緊急に休みが必要な時も、出来るだけ希望にそうようしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に対する支援を行い、勉強会等にて向上心に対する配慮を行っている。又研修参加などには勤務表の調整も行っている。母体が医療法人であるため職員の健康相談も行っている。	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があればホームの見学をすすめ、ホームでの生活の様子を見ていただいたりし、利用にいたるまでのお話を聞き、本人の希望、不安など知り、ホーム利用後も自宅にいた時と変わりなく暮らしていただくには、職員はどう関わっていったら良いか、考えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけて家族の話の聞き、不安に思っていること、困っていることを把握し、事業所が行うサービスの内容や、現在ホームを利用されている方の様子を伝え、見ていただくようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、病院で亡くなったかたの葬儀にお参りし家族に挨拶を行っている。そのご家族が利用者にお菓子を届けてくださったり、お話に来ている。退所後入院した方のお見舞いに伺ったり、ご家族の相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会を見て会話し、毎日の暮らしの中での言葉や態度からご本人の思いを汲み取るように心がけている。職員同士、情報を共有し、検討にむけて対応を考えるようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報をえるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時に、ご家族に家族介護状況表をお渡しし、生活歴やお元気な頃の暮らしぶり等、記入していただき、施設を利用されていたかたは、施設の中での暮らしぶり等の情報も頂きこれまでの暮らし方を続けられるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズム(バイタル、排泄の時間、食事量、睡眠時間)を記録し職員全員が把握し、毎日の暮らしを支援し、ご本人の力を暮らしの中で確認しながら、日常の生活で活かせるよう職員で取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や御家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。毎日の申し送り、ミーティング、ケアカンファレンスで職員、ホーム長、看護師の意見を聞き計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、毎日の申し送り時、利用者の状況の変化を確認し、期間以前でも身体状況の変化があればプランの見直しを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記録し、職員間の情報の共有を行っている。介護記録の理想的な仕方を学びたいと思い研修に参加し、職員にも伝えている。介護計画の見直しにも活かし、記録の大切さを申し送りなどで説明している。</p>	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>当該医療法人主治医による月1回の定期受診を行っている。独居の利用者の帰省の送迎、家族の状況におおじて、通院、受診の支援をしている。平成20年4月から認知症対応型通所介護を始め近隣の方にご利用いただいている。</p>	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>自宅のある地区の民生委員の方が面会に来てお話して下さったり、利用者の自宅周辺の掃除を地域の方をお願いしている。独居の利用者が一時帰宅した際は、近隣の方に職員が挨拶をし、留守になることを告げお願いしている。警察、消防署と連携を取り協力を依頼している。</p>	
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>ご本人、家族の希望に応じ、訪問理容サービスや訪問歯科のサービスを受けられるよう支援している。市から居宅介護用品費の支給認定を受けた利用者は家族から依頼を受け、支給券でサービス業者からオムツの購入が出来るよう支援している。</p>	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>サービス利用の問い合わせ、相談などの情報交換を行っている。運営推進委員会等を通じ情報交換、協力体制を築いている。</p>	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院併設のホームであるが、利用契約時に御家族、本人の希望するかかりつけ医に続けて受診出来ることを説明し、受診の支援を行っている。ホーム併設の病院以外の病院の受診は基本的に家族同行となっているが、不可能な時は職員が代行している。家族に了解を取り、当医療法人で定期受診を行い、急変時は訪問診療で随時対応している。</p>	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定例会、ミーティングの折に職員の意識向上を図り、日々のかかわりの中で管理者は、職員が利用者のプライバシーを傷つけない対応を行っているか常に点検している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声を掛け、意志の確認を行うようにし、意思表示の困難な方は、表情で読み取るようにしている。利用者とは過ごす時間を通じて、利用者の希望、関心、嗜好を見極める努力をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて、体調や希望により食事の時間を変えたり、買い物、外出、受診等希望を確認しながら出来るだけ個別性のある支援をおこなっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの商店で洋服を選んで購入したり、馴染みの理容院に来てもらい利用したり、パーマの希望時は美容院に出かけるなどしている。希望により化粧品の購入や身だしなみが行いやすいよう鏡など揃えておしゃれを楽しめるよう支援をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では野菜の皮むき、テーブル拭き、配膳、下膳等できる事を手伝ってもらっている。食事介助が必要な方にはその方のスピードに合わせて介助し、一人の職員が食事が終わるまで付き添いようにしている。職員は出きるだけ利用者と同じテーブルで食事を取るようにしている。利用者の育てたトマト、キュウリを献立に取り入れ話題になった。	○	昨年の外部評価でも指摘を受けた食事を楽しむ雰囲気作りを考えながら取り組んでいるが十分でないのでこれからも取り組みを続け充実させたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ジュース、ビールを希望され職員と買いに行き、夜休む前飲まれたり、家族の購入した養命酒を夕食後のまれるように職員が準備している。ホームの行事では好みを聞き飲み物を準備している。おやつも好みのものを聞き手作りしたりして楽しめるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレを居室ごとに整備しオムツ使用の方も、日中はトイレで排泄の支援をしている。排泄チェック表を使用し、尿意等を訴えられない方も時間を見計らって排泄の支援を行っている。夜間オムツの方も日中は紙パンツ、布パンツを利用し、トイレで気持ちよく排泄していただくよう支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調、受診、外出、家族、本人の希望やタイミングを考えながら入浴日、入浴時間を決め支援している。入浴前の声がけもその方に合わせスムーズに入浴していただけるよう考えながら行い、一人の職員がはじめてから終わりまで入浴の介助をし、ゆっくり会話をしながら入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	○ 夏の間希望があれば夜間入浴の実施を具体的に職員と話し合いたい。19時から20時希望の方に夜間入浴を実施し気持ち良かったと感想があった。職員の人数と業務を見ながら取り組みたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後希望によりお昼寝をしてもらったり、夜間睡眠が十分取れていない方は様子を見ながら休憩が取れるよう支援している。なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝つけない時には、添い寝したり、お茶を飲みながらお話を聞いたりする等配慮している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	他利用者の相談相手になり要望を職員に伝えて下さる方、食事の時間になるとテーブルを拭き、お茶を入れたり、配膳の手伝いをしたり、それぞれの方が役割を持ち暮らせるように支援している。お祭り見物、買い物、外出、面会、外泊など一人ひとりの楽しみごとを把握し気晴らしの支援が出きるよう努力している。	○ 家族会で利用者の生活歴調査書をお渡しし、記入をお願いした。プライバシーを考えながら日常生活の支援に利用させていただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が家族が管理されているが、希望される方には、お金を所持してもらい、買い物、理容、美容代の支払いをしている。また、お金をホームの金庫に保管し、本人の必要時に出し、領収書は保管し、出納帳で残金の確認をしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りの商店へ買い物、市役所、銀行に行ったり、日常はホームの前庭で日光浴、草花の水遣り、草取り、で戸外に出ている。行事、ドライブ、お祭りなどで外出の機会を作るようにしている。栗ひろい、同じ法人の新築時の餅まきなどは限られた方であるが出かけている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅へ長いこと帰っていない方の希望を聞き、娘さんの協力で自宅へ帰省できた。独居の方の希望で、職員が送迎し自宅の様子を見に帰省したり、娘さんの家族と生まれ育った里のお墓まいりをされた。日常のかかわりでご本人の希望を聞いたり、様子から御家族にも協力をいただきながら支援をした。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでほしい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	ご利用者の生活歴を把握し居心地よく過ごせる居室になるよう取り組みたい。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・運営母体が医療法人なので高齢者に必要な医療が密着している。・三重町駅から徒歩10分のところにあり交通の便が良い。町の中心部にあり、市役所、銀行、スーパーなど近く、入居の方も買い物、銀行に歩いて行ける。職員の外部研修、資格の取得に積極的。各居室にトイレと洗面台があり利用者に喜ばれている。